

The background image shows a bright, modern library space. On the left, there are two white chairs near a large window overlooking a green landscape. In the center, there are several white tables and chairs arranged for study. On the right, there are white bookshelves filled with books. The overall atmosphere is clean and bright.

和歌山大学附属図書館年報

2015/2016

目次

はじめに	1
TOPICS	2
1) 和歌山県内の歴史資料等のデジタル化および地域連携推進事業開始……………	2
2) 中国の大学図書館との交流……………	2
3) “蔵書リユース市” 初開催……………	3
4) 目録システム入門講習会開催……………	3
5) 新入生図書館ツアー、ガイダンス……………	4
6) サービスリニューアル ……………	5
7) 催し……………	6
8) 企画展示……………	7
学生協働	8
1) 学生サポーター開始……………	8
2) ラーニングアドバイザー（LA）開始 ……………	9
紀州藩文庫のご紹介	10
視察者・新聞掲載	10
資料管理	11
地域連携	12
統計	13

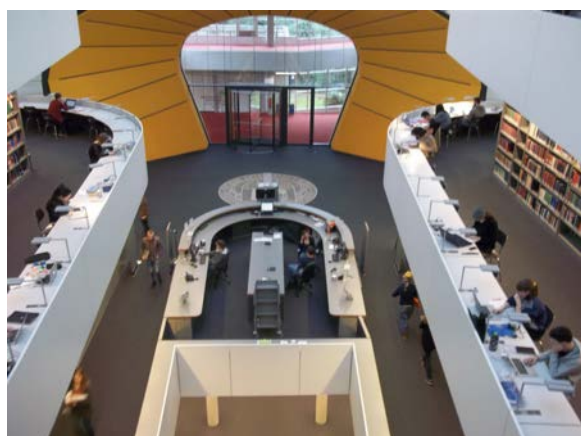
はじめに

附属図書館長 渡部幹雄

和歌山大学は、図書館を学生の教育・研究の中核センターと位置付けるため、『和歌山大学 2011～13 年行動宣言』の 2 番目に「学生の学習、研究を支援する図書館を目指します」と掲げました。また、平成 26 年（2014）12 月に新棟が完成し、附属図書館を含む一帯は「クロスカルセンター」へと生まれ変わりました。「クロスカル」とは、『教養・文化・国際・地域資源・人材などの「ローカル&カルチャー」が「交流（クロス）」することで、新しい価値が創造される場所へ』という思いを込めた造語です。

平成 23 年（2011）から、ラーニング・コモンズやメディアルーム等の整備を開始し、また、1 階～4 階のエリアごとに目的をすみ分け、階数が上がるごとに学問が深化する構成を目指し、図書館資料の配置を再検討してきました。平成 27 年（2015）に紀要の配架場所を変更し、2 年間かけて行ってきた資料の再配置が完了したところです。新棟には、「紀伊半島関連資料コーナー」「熊楠・和歌山の先人たちコーナー」を設け、教養教育とも関連し、地域についてより深く学ぶ体制を整えました。さらに、学生による学修支援を開始するなど、今年度は、「クロスカルセンター」への改革を深化した 1 年となりました。これらの成果を次につなげるため、第 3 期中期目標・中期計画（平成 28 年 3 月）にも図書館に関する項目が具体的に策定されています。

また、平成 27 年度は附属図書館がクロスする先を地域や海外に拡大した年でもありました。地域では、和歌山県的那智勝浦町や九度山町と、海外では中国・山東省やドイツ・ベルリンの図書館との交流を深めることができました。とりわけ、ドイツではベルリン自由大学やフンボルト大学の関係者から大学図書館運営についての意見を聴取することができました。ベルリン自由大学は世界的に知られた大学図書館を備え、中央図書館の建物の斬新さに加えて様々な機能を持つ図書館群が多く、多くの学生達の拠り所となっており、和歌山大学附属図書館の今後の運営上でも参考となります。



TOPICS

1) 和歌山県内の歴史資料等のデジタル化および地域連携推進事業開始

公益財団法人図書館振興財団の助成（平成 27～29 年度）を受け、和歌山県内の歴史資料等のデジタル化および地域連携推進事業を開始しました。この事業は、本学が所蔵する紀州藩文庫デジタル化事業と、県内自治体において所蔵されている地域資料を調査・共有し、公開する地域歴史資料デジタル化推進事業により構成されます。これは災害によって消失する可能性を持つ歴史資料の保全であるとともに、地域研究の進展および学習教材としての広範な活用を企図するものです。

平成 27 年度は、下記のデジタル化を行いました。

(1) 絵図 8 点（和歌山大学附属図書館所蔵）

紀伊古地図

高野山細見絵図

〔紀州御領分之図〕

〔紀伊国絵図〕

〔紀伊国ノ図〕

紀伊国ノ図（伊都郡・那賀郡・名草郡・海部郡）

紀伊国ノ図（有田郡・日高郡・海部郡）

紀伊国ノ図（牟婁郡）

(2) 絵図 1 点（瀬戸家文書／和歌山県立文書館寄託）

日高川河口絵図



2) 中国の大学図書館との交流

呉海元理事、渡部幹雄図書館長、山中節子学術情報課長が中国の大学図書館を訪問しました。

訪問先：

青島大学図書館

中国海洋大学図書館

青島科技大学図書館

日程：

9月14日（月）～17日（木）



国際交流はクロスカル図書館の重要な活動の一つです。日本最大の半島（＝紀伊半島）に位置する和歌山大学の特性から、半島域に位置する大学と焦点をあてて交流を行うという方針に基づき今回の訪問が計画されました。

各図書館は広々としたキャンパスの中心に位置し、図書館自体もとても広い面積を有しています。今回訪問した3つの大学ではラーニング・commons等の施設は設定されておらず、書架と閲覧机、パソコンコーナーといった従来の大学図書館施設が整備されていました。どの大学でも熱心に勉強する学生の姿が見られ、感銘を受けました。また、日中間では資料の相互利用の面で課題が多いことがわかりました。

3月末から4月にかけては、渡部幹雄館長が、山東財経大学での講演や、西安交通大学で開催された「大学図書館発展方向とサービスイノベーションフォーラム（大学图书馆发展趋势与服务创新论坛）」における報告を行いました。

3) “蔵書リユース市” 初開催

初めての“蔵書リユース市”を10月14日(水)に開催しました。重複や改版で不要となった図書を1冊100円で販売する催しです。

書庫の狭隘化等により、平成26年度より重複などによる除籍を開始しており、不要となった図書の活用を検討し、開催に至ったものです。

会場は、一般の方も入っていただきやすいように、カフェも含めた図書館入口付近に設置。約3,000冊の図書を並べました。初めての開催ということで心配していましたが、様々なメディアで取り上げられたこともあり、当日は開始前に行列ができる程で、半数の約1,500冊が売れました。

カフェ屋外のウッドデッキ部分には、雑誌(保存年限を超えた一般誌)を無料配布するコーナーも設けました。こちらも人気があり、多くの方で賑わいました。



4) 目録システム入門講習会開催

図書館職員のスキルアップのため目録業務講習会を開催しました。

目録業務は、担当係だけでなく受入や閲覧担当などすべての図書館職員に必要な知識であり技能であるため、開催日を図書館休館日に設定し、館員のほぼ全員が受講できるようにしました。また学外からも遠方にも関わらず多数の参加をいただき、充実した研修会となりました。

日時：

9月30日(水) 10:30～15:30

講師：

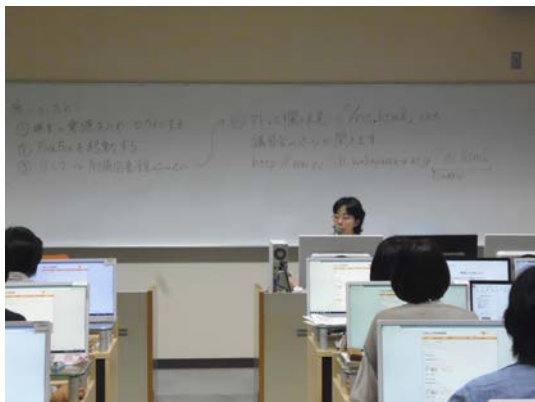
吉田弥生(情報サービス係長)

参加者：

28名

内容：

10:30～10:40	はじめに、事務連絡	10分
10:40～12:00	目録所在情報サービス概要	
	図書目録編①	80分
12:00～13:00	昼休憩	
13:00～14:20	図書目録編②	80分
14:20～14:30	休憩	10分
14:30～15:00	雑誌目録編	30分
15:00～15:30	まとめ	
	①書誌の新規作成と修正	
	②書誌・所蔵の削除	
	③書誌調整	
	質疑応答	30分
15:30～16:00	和歌山大学附属図書館見学	



5) 新入生図書館ツアー、ガイダンス

■ 新入生図書館ツアー（授業向け）

新入生向けに、図書館職員が館内を案内しながら、館内資料の配置、資料の探し方の概要、設備の利用などを説明しています。経済学部及び観光学部については全ての新入生に対して実施し、その他の学部については、教員からの申込みにより実施しました。

- ・実施日：4月8日（水）～5月18日（月）
- ・時 間：30分程度
- ・実施数：44グループ（1グループあたりの人数は3名～20名程度）

■ ガイダンス

上記ツアー以外に、上級生向けのガイダンスを実施しました。

1. 授業の一部（全2回）

(1) 4月16日（木）2限 「地域図書館論」

対象：複数学部、複数学年、40名程度
 内容：情報源（資料）の種類と使い分け
 検索ツールの紹介

(2) 5月13日（水）1限 「基礎演習」

対象：経済学部1年、21名
 内容：情報源（資料）の種類と使い分け
 検索ツールの紹介
 企業情報を調べる上で有用なサイトや
 データベースのリンク集の作成、配布



2. 授業1コマを担当（全4回）

(1) 5月12日（火）1限 演習

対象：経済・観光の大学院生・研究生、5名
 内容：信頼できる情報を収集する意義の解説
 執筆段階に応じた情報収集
 紙媒体の百科事典を引く演習
 情報検索の演習問題を配布、解説
 論文管理のフリーソフト「Mendeley」紹介

(2) 5月12日（火）3限 演習

対象：経済学部の3年生、11名
 内容：(1) とほぼ同じ（論文管理ソフト紹介除く）

(3) 6月10日（水）2限 基礎演習

対象：経済学部の1年生、22名
 内容：「情報探索ガイダンス（入門編）」として
 (1) と同じ内容を若干アレンジ。
 場所：システム情報学センター第4演習室

(4) 7月1日（水）4限 演習

対象：経済学部の3年生、11名：
 内容：(3) と同じ
 場所：附属図書館ラーニングcommons
 （担当はすべて、情報サービス係長 吉田弥生）

6) サービスリニューアル

■ リポジトリ（論文等）の登録受付開始

4月から、従来の学位論文受付に加えて、学術論文等についての受付を開始しました。

■ 国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」開始

11月11日（火）から、国立国会図書館が提供する「図書館向けデジタル化資料送信サービス」を和歌山大学附属図書館でも利用いただけるようになりました。国会図書館がデジタル化した資料のうち絶版等で入手が困難な資料を図書館内で閲覧・複写（プリントアウト）することができます。

■ 書架の並び替え

夏季期間に、紀要を1階から3階に移動し、参考図書の入替えを行いました。また、春季期間には、文庫新書コーナーの様態替えをしました。これにより、平成26年度から進めてきた配架の見直しが完了しました。

■ グループ学習室予約方法変更（オンラインに）

12月1日（火）から、グループ学習室の予約方法をカウンターでの申し込みから、WEBで予約する方法に変更しました。

■ Maruzen eBook Library 提供開始

2月10日（水）より、90タイトルの電子ブックを閲覧・ダウンロードできるようになりました。

■ 和歌山大学コーナー（既存棟3階）設置

既存棟3階に、和歌山大学の刊行物や教員の著書を集めたコーナーを作りました。

■ 紀伊半島関連資料（増築棟2階）及び 熊楠・和歌山の先人たち（増築棟3階）設置

本学の教養教育では、和歌山の自然環境と文化環境の利を活かして、地域と連携した教育を実施することにより学生が自主的・能動的に学修する機会を提供することとしています。図書館においても、和歌山地域についての基礎的な知識を得ることができるよう、新たにコーナーを開設しました。もっとも見晴らしが良いスペースで、紀州材の香りが気持ち良い空間になっています。

■ 新棟サイン設置

川角研究室（システム工学部）にご協力いただいた新棟サインを10月に設置しました。



7) 催し

■ 第9回ライブラリーコンサート

日時：7月1日（水）12:30～13:00

進行・解説：山名敏之（教育学部教授）、小寺香奈（教育学部准教授）

・ベートーヴェン《クラヴィアソナタ第31番 変イ長調 作品110 第一楽章》

演奏 山本陽一郎（P）

・シューベルト《クラヴィアソナタハ長調 D840（遺作） 第二楽章》

演奏 長戸かおり（P）

・ヒンデミット《トランペットとピアノのためのソナタ 変口調》

演奏 伊東真吾（Tp） 山本陽一郎（P）



■ 図書館講習会「データベースを使った就活情報収集&レポート作成」

① ジャパンナレッジ lib 講習会

日時：10月13日（火）3限（13：10～14：40）

内容：ジャパンナレッジの概要・基本検索
レポート作成のための情報検索手順
業界・企業研究、志望動機作成 等

参加：14名



② 日経テレコン講習会

日時：11月25日（水）4限（14：50～16：20）

内容：日経各紙の記事検索方法・読み解き方、未知の企業の検索
企業業績・人事情報などを使った企業分析

参加：30名

■ 和歌山大学附属図書館講演会「図書館の資料保存－害虫・カビを防ぐ－」

講師：木川りか氏（九州国立博物館科学課環境保全室長）

日時：平成28年3月4日（金）10：00～12：00

参加：46名



TOPICS

8) 企画展示

教員が収集した資料と当館所蔵の書籍などを広く紹介し、あわせて教員との連携を図り、内外に大学の資産を周知する目的で、図書館展示を企画しました。

■ 和歌山地域コンソーシアム図書館企画展「高野山をめぐる歴史と文化」

会期：4月10日（金）～5月21日（木）

高野山は真言宗の宗祖空海により開かれた聖地です。最大で1600ヶ寺以上の僧房を構えた、国内でも最大規模の宗教都市で、現在でも117の塔頭寺院が法灯を守っています。平成27年（2015）が高野山開創1200年になることから、これを記念し、各機関が持つ高野山にゆかりのある資料を展示しました。

■ 企画展示「卒業生の足跡」 香川綾

会期：11月20日（金）～3月30日（水）

和歌山大学教育学部は、その前身である師範学校が設立されてから、今年で140年の節目を迎えました。これまでに、長い歴史の中で多くの個性豊かな卒業生を輩出しています。この企画展示では、大正7年（1918）、師範学校女子部を卒業した、香川綾にスポットを当て、「おいしくて栄養価の高い食事で病を防ぐ」ことを命題として、計量カップ・スプーンの開発を主導するなど、栄養学の確立において稀有な功績を残した香川綾の関連資料を展示しました。



<和歌山大学史展示室を7月に開室>

和歌山大学は、昭和24年（1949）に新制大学として発足する以前から、師範学校・高等商業学校をはじめ前身諸校の歴史があり、和歌山の地と結びついた特色ある知的資産を構築してきました。このような大学の歴史にかかわる資料や知的資産を開示するため、自校史等資料保存活用作業部会での検討を経て、図書館新棟1階に、和歌山大学史展示室が開設されました。大学の歴史にかかる年表や、国内外に6体しか残されていないニホンオオカミの剥製を等身大で写したものなど、本学の深い歴史を理解することができる内容となっています。



学生協働

1) 学生サポーター開始

学生サポーターは、ボランティアで図書館の仕事を
する学生の集まりです。2月にメンバーを募集し、4月
から 11 名のサポーターが活動を開始しました。活動当
初は配架作業を中心に行い、7月には初めて企画展示を
実施しました。11月には新たなメンバーの募集を行い、
5名が加入しました。

学生目線の様々な提案により、他の学生からも興味
をもってらい、図書館の利用促進につながっています。
また、活動を通して自ら提案する力、調整する力などを養い、サポーター同士の交流も深めています。



■ 活動内容

図書館の利用案内、環境整備

返本・書架整理作業（月に1回程度）

ミーティング（月1回程度）

選書ツアーの実施

10月3日（土）、MARUZEN & ジュンク堂梅田店にて選書ツアー
を行いました。4名が参加し、学生の視点で利用者にすすめたい本、
また授業や研究に必要な本など合計 47 冊を選びました。

イベントの企画

- ・「返本台はこう使おう！」 12/21～
（返本台の正しい使い方を知ってもらう企画）

■ 図書展示

「書架で見つけた輝き」 7/9～11/13

（配架作業で見つけた気になる図書を集めて展示）

「学生選書 47」 11/17～2016.3/30

（選書ツアーで購入した図書に POP をつけて展示）



学生協働

2) ラーニングアドバイザー (LA) 開始

10月から、ラーニング・コモンズにおいて大学院生による学修支援を開始しました。

実施期間 10月19日(月)～2月10日(水)

スタッフ

- ①教育学研究科 M2
- ②教育学研究科 M1
- ③システム工学研究科 M2
- ④システム工学研究科 M2
- ⑤観光学研究科 M1



事前研修 10月15日(木) 実施

資料の利用や検索方法などについての基本的な相談に対応できるように、情報探索ガイダンスの内容をアレンジして、研修を実施しました。

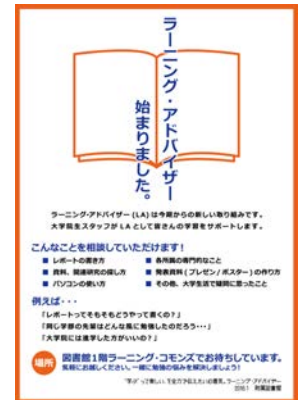
活動内容

周知ポスター、パスファインダー、質問・回答カードなど、広報用資料の作成

ポスターは利用促進のため、館内と各学部の掲示板に掲示しました。

ミーティング

活動方針等について、月1回話し合いました。



相談者数

10月	11月	12月	1月	2月	合計
3人	10人	8人	4人	4人	29人

相談件数

	10月	11月	12月	1月	2月	合計
レポートの書き方	0件	0件	2件	1件	0件	3件
資料の探し方	0件	4件	1件	1件	0件	6件
館内資料の場所案内	0件	0件	0件	1件	0件	1件
PCやプリンタの操作方法	0件	3件	2件	2件	0件	7件
学習上の問題	2件	5件	1件	0件	0件	8件
その他	1件	1件	0件	0件	4件	6件
合計	3件	13件	6件	5件	4件	31件

紀州藩文庫のご紹介

「紀州藩文庫」は、和歌山にあった藩校「学習館」などの蔵書の一部が、組織改正により附属図書館所蔵となっている文庫です。

紀州藩文庫の郷土誌料の中から

090-5〔心学心得草〕

黒江（現：海南市）にあった心学（石田梅岩を祖とした社会教化的な哲学）の道場・楽善舎が著していたものを、黒江尋常高等小学校郷土史研究部が再刻したものです。当時「施印」（せいん）といって、世俗にくだけた、短い教訓や絵を刷りこんだものが道場から無料で配られており、この〔心学心得草〕は、それらを集めたものです。紀州藩における心学は、石田梅岩の教えを受けた手島堵庵が、和歌山から高野口・橋本などを遊説したことにより広がったとされていて、鎌田一窓・鎌田柳泓といった心学者が輩出されています。道場は楽善舎のほか、和歌山の修敬舎・橋本の亦楽舎などがあり、紀州六講舎と呼ばれていました。



090-37〔銀札御板鑑〕

この資料からは、享保15年（1730）に発行された和歌山藩の藩札をみることができます。当時の高度な印刷技術を知ることができる、繊細な文様です。この藩札は同18年には札遣い停止とされるもので、藩札発行の経緯から当時の歴史的背景を学ぶことができ、地域資料として貴重であるのみならず、郷土学習授業の素材としても有用です。



視察者・新聞掲載

新聞掲載

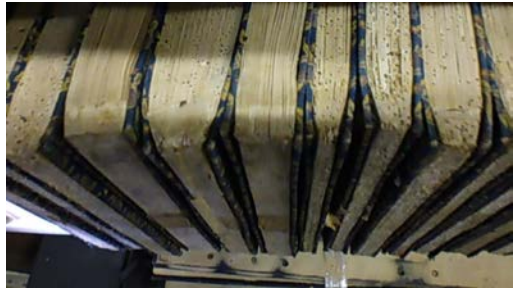
2015年11月3日	毎日新聞	付属図書館で蔵書リユース市	自由に世界を知る場所
2015年12月9日	紀伊民報	本との出会い、大切に	龍神小 和大図書館長が講演
2015年12月16日	熊野新聞	良い街に良い図書館を	和大の渡部幹雄教授が講演 新宮市
2015年12月17日	紀南新聞	オーダーメイドの図書館づくり	渡部館長が理想像を提示
2016年1月1日	毎日新聞（愛知）	資料通じまちを豊かに	
2016年1月1日	紀南新聞	懸泉堂の資料調査が本格化	和大附属図書館が保存事業を開始

見学・来訪者

4月3日	和歌山県国際交流協会（3名）
4月13日	那智勝浦町（5名）
8月3日	名古屋市中川図書館（1名）
8月4日	和歌山工業高等専門学校（2名）
11月4日	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（2名）
11月6日	国際交流基金関西国際センター（4名）
2月10日	京都精華大学（3名）、東北大学（2名）、徳島大学（1名）
3月17日	山形大学（2名）

資料管理

附属図書館では、平成23年(2011)から様々な改革を進めてきました。その一つが資料管理の適正化です。各所で山積みになっていた資料を整理、新棟の増築や除籍により大幅な配架変更を行い、懸案となっていた書庫資料の確認を始めました。その過程で、5月に業者に点検を依頼したところ、シバンムシの大量発生を発見し、対応に追われることになりました。



当初被害が確認されたのは、書庫3階の電動書架で、師範学校から引き継いだ和装本を中心とした資料です。資料に多数の虫が群がり、床や柱にも成虫を確認できる状況でした。

■ 緊急対策

特に虫がついていた資料約200冊をビニール袋に詰めて隔離する一方、誘虫ライトトラップ4台を設置しました(設置後5日間でシバンムシ9772匹を捕獲)。また、書庫1階～3階の床清掃、棚のアルコール消毒を行った後、書庫の全棚の目視点検を開始しました。

■ 書庫資料の殺虫燻蒸(1回目)

最も被害が大きかった書庫3階の電動書架(師範図書)を中心に、約6,800冊の燻蒸を業者に委託しました(薬剤はエキヒュームSを使用)。書庫全体の燻蒸はできなかったため、翌年の発生に備え、燻蒸後の資料はビニール袋に封入し経過観察しています。

■ 職員による隔離対策及び殺虫燻蒸(2回目)

目視点検の結果、書庫3階だけでなく2階にも虫害が確認されるなど、被害は書庫全域に広がっていました。資料を隔離するスペースがないことから、1冊ずつジップロックに封入する作業を行いました。被害は洋古書(1900年代)が中心で、封入冊数は、最終的に3,000冊を超えました。これらの資料は、後述の貴重書の燻蒸を行った際に、あわせて燻蒸しました。

■ 貴重書室

貴重書室については、平成27年(2015)1月に、シバンムシの死骸を確認していましたが、燻蒸予算を認められないままとなっていました。7月31日～8月7日にかけて誘虫ライトトラップを設置したところ、シバンムシ13匹が捕獲されたため、こちらも緊急対策を行いつつ、燻蒸を検討しました。貴重書であるため、搬出はせず、年末年始に現地燻蒸することとし、あわせて部屋の殺虫を行いました(薬剤はブンガノンを使用)。



また、全面的に管理体制を見直し、清掃・点検を毎週実施するよう改めました。IPM(総合有害生物管理)の考え方に学びながら、ドアの隙間対策や温湿度管理の徹底などを行っています。

IPMについては、平成28年3月4日(金)に、木川りか先生(九州国立博物館科学課環境保全室長)に、実際に書庫を見ていただきながら、注意すべき点等を指導いただきました。引き続き、適切な資料管理体制を確立できるよう努めています。

地域連携

和歌山地域図書館協議会

相互に緊密な連絡と協力をはかり、地域図書館の充実に資するため、平成8年（1996）10月に発足しました。



◇平成27年度（第21回）会議

日時：10月21日（水）14：00～16：00

場所：和歌山県立図書館

◇蔵書情報の検索システム提供

和歌山大学で県内の蔵書情報の検索システムを提供しています。県内の方は、お住まいの地域の図書館を通して、県内大学等の図書を借りることができます。

◇催し

高野山開創1200年を記念して、資料展示及びフォーラム（平成27年度高等教育機関コンソーシアム和歌山「わかやま学講座」）を開催しました。

【高野山開創1200年 高野山をめぐる歴史と文化】

日時：10月31日（土）14:00～16:00

場所：和歌山大学松下会館（和歌山市西高松1-7-20）

記念講演「西行と高野山」

下西忠氏（高野山大学文学部教授・図書館長）

資料紹介「高野山大学図書館所蔵の古典籍－西行の時代の資料を中心として－」

木下浩良氏（高野山大学図書館課長）

参加：31名



県内図書館の支援

◇委員等（図書館長）

和歌山県確かな学力の育成に係る実践的調査研究事業検討会（委員）／和歌山県教育庁

和歌山県立図書館協議会

きのくに子どもの読書活動ネットワークフォーラム企画運営委員会（座長）

那智勝浦町図書館アドバイザー及び図書館協議会委員

◇講演等（図書館長）

8月3日 講演「学校図書館の活性化をめざして」／日高地方学校図書館教育研究会夏季研修会

8月24日 講演「学校図書館（室）の近未来像」／那智勝浦町第1回学校司書との連携部会

11月17日 講演「みんなでつくろう未来の図書館」／和歌山市民図書館

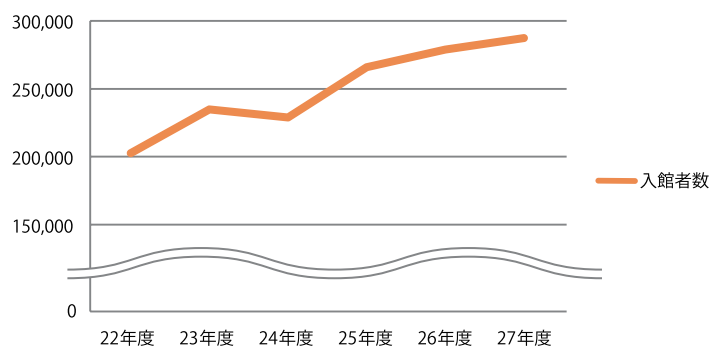
◇その他（職員）

6月24日 平成27年度和歌山県公共図書館協会研修会 講演及びワークショップコーディネーター／藤井亜希子

統計 2013-2016（平成 25-27 年度）

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
年間開館日数	合計	288	286	275
利用対象者数	学生	4,676	4,662	4,945
	教職員	881	865	875
	合計	5,557	5,527	5,820
入館者数	学生・教職員	264,652	278,093	285,820
	学外者	1,499	1,261	2,136
	合計	266,151	279,354	287,956
貸出冊数	学生	20,186	25,383	31,788
	教職員	2,639	2,916	3,898
	学外者	1,231	1,441	1,517
	合計	24,056	29,740	37,203
蔵書冊数	和漢書	534,031	536,023	536,428
	洋書	205,362	206,226	205,825
	合計	739,393	742,289	742,253
図書受入冊数	和漢書	5,809	5,142	3,786
	洋書	999	919	382
	合計	6,808	6,061	4,168
雑誌所蔵種数	和雑誌	4,785	4,821	4,826
	洋雑誌	2,273	2,273	2,275
	合計	7,058	7,094	7,101
雑誌受入種数	和雑誌	1,091	1,377	1,303
	洋雑誌	149	132	89
	合計	1,240	1,509	1,392
文献複写件数	受付	987	817	819
	国内依頼	1,091	1,446	1,226
	海外依頼	7	10	11
現物貸借件数	貸出	484	495	545
	借受	193	204	213

入館者数の推移





和歌山大学附属図書館年報 2015 / 2016

2016（平成28年）5月発行

発行／和歌山大学附属図書館

〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷930番地 TEL 073-457-7915